

適正な
温度管理で
健苗育成

令和3年度
夷隅地域水稻生育情報
第3報

令和4年2月18日
夷隅農業事務所
改良普及課
TEL 0470-82-2213
FAX 0470-82-3975

1 令和3年度の水稲の生育を振り返って

(1) 水稻生育概況

農林水産省が公表した令和3年産米の作況指数は、千葉県全体では101と「平年並み」で、南房総地区では102と「やや良」との結果となりました。

夷隅地域においては、中生の「ふさこがね」で穂数、登熟歩合が平年よりも増加したため、増収となりました。一方で、晩生の「コシヒカリ」、「粒すけ」では、穂数と1穂籾数が平年よりも増加したため籾数が増加しましたが、台風による登熟期の倒伏の影響で千粒重が軽くなり、屑米が増加しました（表1）。

晩生品種での屑米増加に加え、白未熟粒（シラタ）が多く発生しました。この原因として、以下の2つの影響が考えられます。

- ① 出穂期の穂数が平年よりも多く、弱勢穂（稔りが悪い穂）が出現しやすい条件にあったこと。
- ② 台風による倒伏。

表1 夷隅地域での作柄調査ほにおける収量・収量構成要素の平年比

品種	調査場所	植付時期	平年比 [※]							
			精玄米重	屑米重	収量構成要素					
					m ² 当たり穂数	1穂籾数	m ² 当たり籾数	登熟歩合	不稔歩合	玄米千粒重
ふさこがね	大多喜町 下大多喜	4月20日	増	減	やや多	並	やや多	高	低	並
コシヒカリ	いすみ市 松丸	4月20日	やや増	増	多	多	多	並	高	やや減
粒すけ	いすみ市 島	4月19日	増	増	多	多	多	やや低	高	減

※ 粒すけは調査2年目のため、昨年度と比較した結果を示しました。

(2) 白未熟粒（シラタ）対策

白未熟粒対策のためには、健苗育成に加え、茎数がそろったら速やかに中干しを開始することがポイントです。適期中干しにより受光体勢が良くなり、根の活性が高まるため、倒伏軽減効果等も期待できます。

最新の水稲生育情報を確認し、水稻の生育に合わせて中干しを実施しましょう。

2 次作に向けてのポイント

(1) 種子消毒の確実な実施でイネばか苗病対策

近年、イネばか苗病の発生が全国的に問題化しています。イネばか苗病はカビの一種で、主に種子伝染しますが、種子消毒の徹底で防除できます。特に採種ほ周辺では、イネばか苗病の徹底防除に御協力ください。種子消毒を行う際は、以下の事項に注意して実施しましょう。

- ① 「ヘルシードTフロアブル」等、効果の高い化学合成農薬を使用する。
- ② 農薬ラベルに記載されている希釈倍数や処理時間等の使用方法を守る。
- ③ 消毒時の水温は10～15℃とし、浸種時の水替えは静かに行う。
- ④ 温湯消毒や微生物農薬による種子消毒は、それぞれ単独では効果が劣るため、これらを組み合わせた体系的な処理を行う。
- ⑤ 作業場やその周辺をよく清掃し、稲わら、糠、粃殻等がないように清潔に管理する。

(2) 育苗時の適正な温度管理で病害対策

育苗時の温度管理は、細菌やカビによる病害や発芽率の低下を防ぐために重要です。そのためにも、ハウス内の温度だけでなく、遮光シート内部や床土の温度にも注意して管理します。

ア は種前、は種時

- ① 種粃の催芽は30℃で実施し、ハト胸状態になるまで確実に実施する。
- ② 細菌性病害（もみ枯細菌病、苗立枯細菌病等）の予防のため、は種時には、「カスミン粒剤」、「カスミン液剤」、「フタバロンA粉剤」のいずれかを使用する。

イ は種後（表2）

- ① 細菌性病害の発生予防のため、床土の温度を30℃より高くしないように管理する。

表2 は種後の温度管理

	出芽		緑化	硬化
	加温出芽	無加温出芽		
日数の目安	2日	5日前後	2～4日	15～20日
温度	昼	30℃	20～25℃	5～25℃
	夜	30℃	10～20℃	

(3) ジャンボタニシ被害は複数の対策を組み合わせで防ぎましょう

ジャンボタニシの被害を減らすには、成貝の越冬を防ぎ、水稻移植後の対策の徹底が重要です。ジャンボタニシ対策資料を別紙のとおりまとめましたので、参考にしてください。

(4) 不稔を引き起こすイネカメムシに要注意！！

一般的な斑点米カメムシ類は、粃を吸汁して黒い斑点を残し、品質を下げます。一方でイネカメムシは、出穂期に粃の基部を吸汁することにより不稔を引き起こし、収量を減少させます。イネカメムシに被害された穂は粃が充実しないため、傾かずに直立した穂となります。

このような被害を防ぐには、出穂直後のイネカメムシによる吸汁を抑えることが特に重要です。出穂前の防除を徹底し、もし出穂期にイネカメムシの発生が見られる場合は追加防除を実施します。



写真1 イネカメムシ

できるだけ迅速に情報提供を行うため、郵送から電子メールまたは FAX への切換えを進めています。切換え可能な方は、下記までご連絡ください。

連絡先 鈴木聡史、緑川、板倉 メール: s.sz311@pref.chiba.lg.jp (鈴木) TEL: 0470-82-2213